

## 佐々木 悠葵 (群馬/115期)

昨年11月にS級特進を果たしたばかりだが、前期はF1戦とは言え5Vを達成。しかもすべて3連勝で、持ち味の自力攻撃の破壊力には素晴らしいものがある。初のビッグレースでどこまでやれるか注目だ。



## 取鳥 雄吾 (岡山/107期)

鎖骨骨折からの復帰戦だった高松宮記念杯は精彩を欠いたが、6月久留米記念は本来の力強さが甦り①②③着と4日間確定板入り。サマーナイトは成績が良くないが、今のスピードなら活躍が期待できる。



## 町田 太我 (広島/117期)

6月松山1①③①着ではG3開催初Vを達成。先行で押し切っただけに高く評価できる。ビッグレースは初参戦なのでチャレンジャー精神で挑んでくるはず。スケールの大きな競走を演じて台風の目と化すか。



# ガールズケイリンフェスティバル

# 女王児玉碧衣に強敵そろう



碧衣 玉兒

### 出場予定選手詳細



佐藤 水菜

立々ならぬ思いで臨もう。自分のタイミングで一気に仕掛けていければ勝てる。

ナショナルチーム入りで急成長を遂げたのが佐藤水菜だ。5月京王閣でのコレクションでは遂に特別レース優勝を果たした。そのコレクションを含め目下11連勝中。出走回数が少ない分、グランプリ出場へ一戦一戦集中力高く走れている。しかも毎回テーマを持って走っており、

21名の参加選手のうち7名しか決勝に勝ち上がれない狭き門。しかも普段の開催ではV争いの中心にいる選手ばかりとあって波乱の余地もありそう。それでも本命には児玉碧衣を推すのが順当だろう。ガールズグランプリを3連覇、5年連続でファン投票1位を獲得した女王へ寄せられる信頼は絶大だ。2場所欠場して心配された腰の状態も6月向日町の完全優勝でおおむね不安は解消された。これまで不思議と勝てていない大会だけに

鈴木美教、小林莉子も相変わらず安定している。流れに乗つての一発が出るか。ピッグにも気後れなく臨めるようになつた坂口楓華はそろそろの期待を抱かせるし、短距離強化指定Aの実力者・梅川風子も好勝負は必至。尾方真生ら新鋭の挑戦も見ものだろう。

今度はどういう考え方で大一番に臨むかも  
見所となりそう。